

各位

全3ページ
登録速報(2019-225)
2019年 9月25日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部 普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。
適用拡大登録年月日：2019年 9月25日

記

1. 農薬の登録番号及び名称
登録番号：第24154号
名称：エンペラーフロアブル
2. 変更の内容
農薬登録申請書第7項中、以下を変更し、別紙1【変更後】のとおりとする。
 - ①作物名「移植水稻、直播水稻」の適用雑草名「水田一年生雑草」を「一年生雑草」に変更する。
 - ②作物名「移植水稻、直播水稻」のフェンキノトリオンを含む農薬の総使用回数「1回」を「2回以内」に変更する。
3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容
農薬登録申請書第8項中、2)、6)を変更し、以降を繰り下げ、別紙2【変更後】のとおりとする。

別紙 1

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	<u>一年生雑草</u> 及び マツハイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クロクワイ コウキヤガラ エゾノヤヌカグサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	500mL/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ヒ ¹ E3 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布 又は水口施用
直播水稻	<u>一年生雑草</u> 及び マツハイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲出芽揃期～ヒ ¹ E3 葉期 但し、収穫 90 日前まで			

ピラコニルを含む農薬の総使用回数	ピリミバクメキルを含む農薬の総使用回数	フェニトリアンを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	<u>2回以内</u>

別紙2 【変更後】

8. 使用上の注意事項

- 1) 本剤の使用に当たっては、使用前に容器をよく振ること。
- 2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ヘラオモダカ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは3葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 3) オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- 4) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 5) 原液湛水散布の場合は、水の出入りを止めて湛水状態（水深3～5 cm）のまま水田全面にゆきわたるように散布すること。散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5 cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 6) 水口施用の場合は、入水時に水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態（水深3～5 cm）に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- 7) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ①砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2 cm/日以上）
 - ②軟弱苗を移植した水田
 - ③極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
- 8) 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。
 - ①発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、稲の出芽が揃わない場合は、稲の不完全葉期以降に散布すること。
 - ②稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - ③除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、水持ちの安定した後に散布すること。
- 9) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 10) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 11) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- 12) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 13) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- 14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上